

事務所通信 リソース

7月号 VOL. 25

税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : cyuou@csk-i.com



いつもお世話になります。

甘い物好きな若い男性を「スイーツ男子」と呼ぶそうです。「男のクセに…」と思われるかもしれませんが、メタボを気にしながら甘い物を食べる「隠れスイーツ中年」も急増中だとか。

女子から若い男子、そして中年男性へと広がる甘党の潜在顧客。これは商売の参考になるかもしれませんね。

両親から住宅購入資金をもらった場合は！

平成二十四年度の税制改正で、住宅取得等資金の贈与の特例が、拡大延長されました。

これは、父母や祖父母などの直系尊属から、住宅などを取得するために資金贈与を受けた場合、一定金額について贈与税が非課税になるという制度です。

平成二十四年中に、住宅取得等資金の贈与を受けた場合、一定の「省エネルギー性」または「耐震性」を備えた良質な住宅用家屋であれば、非課税限度額は千五百万円になります。

また、それ以外の住宅用家屋の場合、非課税限度額は、一千万円になります。

なお、この非課税制度に、従来からの暦年贈与の基礎控除額である百十万円がプラスされると、千五百万円の場合は合計千六百万円、一千万円の場合は、合計千百十万円までが非課税となります。

贈与を受ける対象者は、贈与を受ける年の一月一日において二十歳以上の子や孫などに限られ、子や孫などの配偶者は含まれません。

また、自分のための居住用家屋及びその敷地の購入費用、もしくは所有家屋の増改築の費用であること。その他にも床面積など、特例の適用を受けるには一定の要件を満たす必要があります。

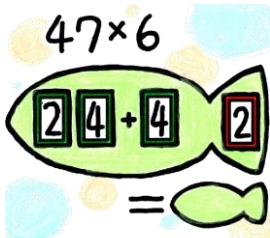
なお、この制度は平成二十六年十二月三十一日までですが、年々、非課税限度額は減っていきます。

ただし、東日本大震災の被災者の方については、三年間とも限度額は同じで減りません。また、床面積の上限も設けられています。



【小学生でも数時間で99×99の暗算が可能に！】

東大医学生が考案した『ゴースト暗算』が、画期的な暗算メソッドとして話題になっています。日本の九九を超えるとして有名なインド式は、19×19 の掛け算を暗記しますが、ゴースト暗算は「おさかなプレート」を使ったトレーニングにより、小学生でも数時間で 99×99 の暗算が可能になります。左脳と同時に右脳も活性化するのがゴースト暗算のスゴイところ。タブレット端末の進化で辞書や電卓は誰もが持ち歩く昨今、差をつけるのは脳力の鍛え方なのかもしれませんね。



【国税はどちらでしょう？「法人税」「事業税」】

新聞やテレビなどで「国税」「法人税」「間接税」など、「税」のつく言葉をよく見聞します。これらの言葉は何となく理解していても、中にはちょっと自信のないものもあるのではないのでしょうか。

税は「どこに納めるか」「何に対して課税するか」「納め方」の三通りに分類できます。「どこに納めるか」では、国に納める「国税」と都道府県や市町村などの地方公共団体に納める「地方税」にわけられます。地方税は都道府県税と市町村税に分かれます。国税には法人税・所得税・消費税などがあり、地方税の道府県税には道府県民税・事業税・地方消費税などが、市町村税には市町村民税・固定資産税などがあります。

「何に対して課税するか」では、所得税や法人税のように個人や会社の所得に対して課税する「所得課税」。消費税や酒税など物品の消費やサービスの提供などに対して課税する「消費課税」。固定資産税など資産などに対して課税する「資産課税等」に分かれます。また、「直接税」や「間接税」は「納め方」になります。直接税は、法人税や所得税のように「税を納める人」と「負担する人」が同じ税金のことをいい、一方、消費税や酒税のように「納める人（事業者）」と「負担する人（消費者）」が異なる税金を「間接税」といいます。

【今月の教えてキーワード： 次世代自動車】

ガソリンなどの化石燃料の使用を大幅に削減した車のこと。

電気モーターを併用して走るハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）、水素と酸素の化学反応で発電して走る燃料電池自動車などがある。

政府は、「低炭素社会づくり行動計画」において運輸部門からの二酸化炭素削減のため、2020年までに新車販売に占める割合を最大50%にする目標を掲げている。

各自動車メーカーは生き残りをかけて開発を強化、提携も相次いでいる。

【その効率化は誰のため？】

今のようなご時世では、いかに無駄なく効率的な商売をするかが、重要なポイントのひとつと言えるでしょう。しかし、「どこを削るか」と「どこにお金をかけるか」の見極めは経営センスが問われる大事なところですよ。

ここはひとつ、節約上手な主婦の発想を参考にしたいものです。

家庭の主婦であれば、「どんな状況でもまず守るべきは家族」だとしっかり認識しています。家族を守る基本は健康管理です。どんなに食費を切り詰めても、その範囲内で可能な栄養バランスを考え、たとえ「もやし料理」でもバリエーションに知恵を絞ります。



今はディズニーランドに行けなくても、健康であればいずれ家族全員でミッキーマウスと記念写真を撮れるでしょう。その日のために家族の健康を守るべく、主婦たちは今日もチラシをくまなくチェックして、底値を求めて自転車を走らせるのです。

「お母さんは家族のために頑張ってくれている」。そう感じるからこそ、もやし料理が3日続いても家族は文句を言いません。けれど、節約したお金で自分だけこっそり3000円のランチを食べているとなれば、家族の絆は一気に崩壊するでしょう。

主婦で実業家のある女性は、いわゆる「主婦のアイデア商品」がヒットしたことで会社を立ち上げたそうです。今では年商も億を超えるようなので、さぞかしオフィスは立派だろうと思いきや、雑居ビルの一角に内装も質素な事務所を構えているだけだとか。その理由は、「お客様に提供するサービスと関係ないものにはお金を使いません。会社の内装にお金をかけるとサービスの値段を高くしなくてはならないですし、値段を高くすると今度は宣伝広告をしたりと余分な仕事が増えるんです」とのこと。つまりこの女性実業家にとっての効率化とは、お客様のためにならない出費は一切しないことなのです。このポリシーが効率化の最大の柱だそうです。

何のための効率化なのか、その目的がブレてしまうとお客様は敏感に反応します。だからこそ、「会社の帳簿」ではなく「お客様の喜ぶ顔」が思い浮かぶような商売の効率化を進める会社は、どんな時代でもお客様から支持されるのでしょう。